16対6で東小の増築を議決

足寄

「鳴海発言」の〃空転〃もあつて二十六日までの会期を延長した最終日の足寄町議会は、今議会最大の焦点ともいうべき東小学校増築のための設計委託料六百六十万円の補正予算案をめぐつてエキサイトしました

前日に東小学校への通学区域変更の撤回を求める請願を提出した下愛冠の大野耕太郎氏ら二十名が傍聴するなかで、この請願の紹介議員の遠山謙、鳴海一郎、矢野寛一、久保田庄太郎氏らが予算案に反対を主張、花田幹男、香川博彦氏から賛成の意見が述べられて、挙手採決の結果、十六対六で原案どおりに議決となりましたが

△賛成は斎藤祐一、阿部俊夫、吉田吉之助、花田、畠正吉、大塚正夫、神本三也、五十里信雄、高橋募、鷲足賢、高橋幸雄、多治見敬一、香川、横田文治、板谷捷平、大浦武夫氏

△反対は遠山、高橋佳夫、久保田、矢野、鳴海、大久保繁氏

で、この日の欠席は石田富男、佐々木一、でした。

つづいて通学区域変更の請願は「みなし不採択」との意見の出ましたが、地域住民の理解と協力を得るために文教委員会（阿部俊夫委員長）に調査を付託することになりましたが、四月一日に実施が迫っているために、さらに三十一日まで会期を再延長して、問題の結着をつけることにしています。

婦人科医師が決定

足寄町立国保病院に二年ぶりで産婦人科の固定医師を迎えることになりました

この医師は鹿児島大学医学部出身の中留邦彦医学博士(46)で、同学部解ぼう学教室、県立病院、宮崎市で内科医開業、静岡県富士病院産婦人科医長をへて来町、四月一日から診療にあたります。

記者席

○…足寄町市街地の小学校問題は昨年の町長選挙によつてその方針が打ち出されて、現校地改築を公約した小林町長が圧倒的な支持をうけて当選した以上は、その方向で教育行政がすすめられるのは民主主義のルール。

○…具体的には昨年の六月いらい議会がひらかれるたびに教委からその進行ぶりを説明して、暮の定例会で東小と西小との通学区域調整は中島町と下愛冠の両地区が対象として充分に論議しており、これは議会の議決事項ではないので、教委の責任によつて執行し、議会が協力するのは当然。

○…しかし通学区域変更はどこの町村でも難事業のひとつで、関係住民の一〇〇％の賛成はあり得ないことで、多少の不満や異議はつきものなので、教委として八日に異例の告示をするほどの決意があつたのだから議決事項ではないがその前に議会の〃洗礼〃をうけるべきだつたもので、小林町政には〃なんでも反対〃の常連もいるようなので満場一致とまではいかないとしても、多数決で議会の意思を表明できた筈。

○…そうした手立をしなかつたために下愛冠へいつて反対運動をあおつておきながら、文教委議員の教委への協力を逆に『かげの工作』とキメつけられる始末で、この発言の取消しをめぐつて審議放棄で一生県命にかげの工作？。

○…不適当な発言であれば堂々と本会議場で理非曲直を明らかにすべきところなのに旧態依然としての裏取引では、新人議員が十名も登場した甲斐もないことで、しかも『かげの工作は文教委員ではなく教育委員』ということで妥協したのでは教委の立つ瀬がないことで下愛冠の反対運動を議会として正当化したような形。

⊙…関係住民のなかからの反対の動きは心情としてありとしても、議員として反対するからには、すくなくても昨年の九月あるいは十二月の時点で態度を明らかにすべきだつたのに、片や二十四学級（西小）片や六学級（東小）の不正常な現状を適正規模に編成して十数年来の県案であつた西小の改築をすすめるために道教委の諒承をとりつけ、すでに四月からの教員配置も決まつたこんにち、代案も対案もなく反対では無責任ということ。

○…町議会は論議の場だから大いに議論すべきだとしても、実際問題として常識的にいくら反対しても通らないことを承知のうえで時間をかけて論議するのは常連メンバーで、大多数の議員は仕方なく質問回数のおわるまで辛抱強く〃ご意見拝聴〃というのが毎議会のことで、それだけ時間をかけたからには議案の修正なり否決なりへもつていけるだけの根拠なり説得力がなければならないのに、時間をかけてもあとは例によつて原案とおりでは空しい論議というべきで、発言する以上はそこになにか実りがあるのでなければ—。

商工会館の落成式

足寄町商工会（新沼芳雄会長）では二十二日午前十一時半から新築なつた東一区（帯広信用金庫支店裏）の商工会館大ホールに町内外の来資、関係者など百余名があつまり、落成式がおこなわれました。

はじめに松山足寄神社宮司による修抜式があつて、高橋佳夫専務の司会によつて新沼会長のあいさつ、日景健治副会長の工事報告があり、工事施工の秋林建設の秋林専三郎氏に新沼会長から感謝状と記念品がおくられました。

このあと公民館大ホールで祝賀会をひらき、柴田栄一副会長の開会の辞、新沼会長のあいさつ、長沢十勝支庁長、小林町長、大滝議長、金沢賢蔵十勝商工会連合会代表からそれぞれ祝辞があり、祝電披露があつて池田税務署長の発声で乾杯祝宴に入りました。

STVラジオ　松山千春が毎日曜出演

STVラジオでは四月からの番組改編にあたり、毎週日曜日午後一時〜四時までの「サンデー・ジャンボ・スペシャル」を若人向に趣好を変える一環として、その時間帯のなかに「松山千春コーナー」を設けることになりました。

松山千春（本紙社長の長男）は一昨年に足寄高校を卒業、昨年は十勝代表で全道フォーク・フェスティバルで優勝していらい家業の新聞発行を手伝いながら単発的にテレビやラジオに出演していましたが、このたびSTV側の希望で毎日曜日に自ら作詞、作曲した歌を自らのギターで歌うことになつたもので、生放送のため四月四日から毎週、足寄〜札幌間を往復することになりますが、郡部に住んでいる無名の青年をレギュラーとして起用して放送に出演させるのはSTVとしてははじめての試みといわれています。

霊きゅう車　葬儀仏具一式　花輪　生花
(に)　自動車
新津はなや
足寄町西三区　T　二六二六

観光と
保養の
大自然のなかの人工美
—いで湯のふるさと—
♨芽登温泉
足寄町芽登　T二八五五